

昭和55年12月20日



小田原市制施行四十周年を迎えるに当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

古い歴史と伝統を持つ本市が、時代の移り変わりとともに、幾多の試練に耐えながら今日を迎えることができましたことは、誠に感慨深いものがあります。

当時は人口五万四千余人の地方小都市にすぎなかった小田原市が、今では人口十七万七千人を数え、県西地域における中核都市として、いろいろな面で重要な役割を果たすまでに発展してまいりました。これも、ひとえに先人のご努力と市民のみなさま方のご支援ご協力の賜物でありまして、深く感謝申し上げる次第であります。

申すまでもなく、一九八〇年代は地域の特性を生かした個性豊かな地域社会を創造する「地方の時代」といわれております。こうした時代の要請の中で記念すべき日を迎えたわけですが、私も市議会といたしましても、この日を次代に向けてさらに飛躍する新たな起点としてとらえ、「緑と水の豊かな住みよい都市」と人と人の触れ合いを大切にしたい人間性豊かな地域社会の創造のため、一層の努力を怠りません。今後とも市政の進展のため市民のみなさま方におかれましては、今後とも市政の進展のためお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



小田原市議会議長  
尾崎 正

一九八〇年代は「地方の時代」といわれ、その始まりの年である今年、本市は市制四十周年を迎えました。

人生にたとえれば「不惑」の年であり、明日の発展のために一層責任の重い時期にさしかかっています。

このときに当たって、歴史と伝統、そして豊かな自然に恵まれた私たちの郷土・小田原が、その地方の時代を開くためには、今日の基礎を培った先人の歩みを理解するとともに、地域の特性を生かした行政を展開しなければならぬと考えます。

このたび、市制四十周年の記念事業として取り上げました「目で見る小田原の歩み」の映画と記念誌の製作、城址公園のお堀の浄化、「いこいの森」の建設は、郷土との触れ合いと恵まれた環境の活用を目指したものであり、陸上競技場の全天候型への改修と中央公民館の建設は、明日を担う市民のみなさんの健康と文化を形成するための拠点となることを願ったものです。

さらに、二十一世紀を展望しての新小田原計画の基本構想についても、市民のみなさんの参加を得て、現在検討中でありま。

このように、四十周年を機に本市の輝かしい未来へ向かって決意を新たにしたい一層努力することをお約束するとともに、諸先輩はじめ市民のみなさんのこれまでのご尽力に対して心から敬意を表するものであります。



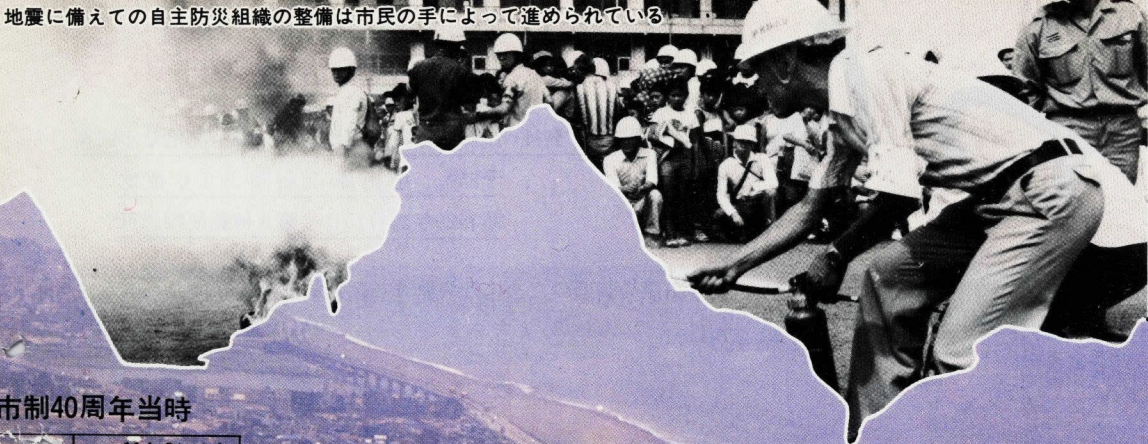
小田原市長  
中井 一郎

## 目次

- 明日に伸びる小田原 ..... 2~3
- 市制施行当時の小田原 ..... 4~5
- 再建から躍進の時代 ..... 6~7
- 伸張り繁栄する小田原 ..... 8~9
- 緑と水の豊かな住みよい都市 ..... 10~11
- 市制40周年の記念行事 ..... 12



地震に備えての自主防災組織の整備は市民の手によって進められている



一九八〇年、今、小田原市は新たな躍動を始めています。二十一世紀を展望した「新小田原計画」の策定が、市民集会を経て鋭意進められており、明日に向かって伸びる小田原の姿勢がこの中に盛り込まれようとしています。

国の第三次全国総合開発計画、県の新神奈川計画、新県西地域広域市町村圏計画、こうした諸計画における本市の役割は非常に大きなものですが、これを踏まえながら健康で豊かな、そして個性あるまちづくりを目指して、小田原市は今再び飛躍しようとしているのです。

これからの小田原を担う子どもたちにとって豊かな明日が約束される小田原を願って……

# 明日に伸びる小田原

市制40周年記念特集号

都市計画道路・下水道など、近代都市への基盤整備は計画的に進められている



## 市制40周年当時

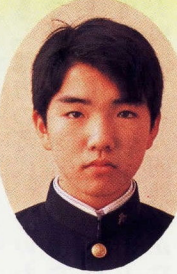
|       |                        |
|-------|------------------------|
| 面積    | 114.24 km <sup>2</sup> |
| 人口    | 177,013 人              |
| 世帯数   | 50,147 世帯              |
| 電話台数  | 55,300 台               |
| 自動車台数 | 50,121 台               |
| 小学校数  | 24 校                   |
| 中学校数  | 13 校                   |
| 予算額   | 25,233,000 千円          |

※4月1日現在

お年寄り子どもと、そしてみんなの心が通い合うまちづくりを目指して……

## 市制40周年記念 作文コンクール

### 市長賞



### 甥の日記より

2010年12月20日

城北中学校3年 山崎雅史

今年市制七十周年の年。市制記念日の今日、市役所でその記念式典が行われたので、伯父と見に行った。

朝八時、伯父が水素自動車を迎えに来る。天気は快晴、箱根おろしが身を切らんばかりに吹いている。昔から「小田原は暖かい」と言われて来たが、土地に住んでいる人間にはそうは思えない。

車は風を切って四車線の道路——市のすみずみを結ぶ一般道路のうちの一本——をどばどばと走って行く。

田園地帯から、準居住区、第二種居住区の標識を頭上を通り過ぎて、市街地に入っていた。樹木はぐっと減りはしたが、それでも家を取り巻くように、葉を既に落としてしまった木々が立っている。時折り、他の線、自転車専用道路、或いは鉄道との立体交差がある。無論、他の線と連絡する場所も数多くある。ただ、交通網の整備のため、ひと頃の大混雑はもうないという。

「俺も、丁度三十年前——おまえと同じ歳の時に市制四十周年を迎えて、その記念の作文を書いた事があったぞ。確かにテーマは——『うだ。未来の小田原』というのだったな。」

伯父は、正面をむいたまま言った。(伯父も僕と同じ歳の時に、未来の事を想像していたのか。とすれば、どんな未来の事を想像していたのだろう。)と思ったが、それは、ついに聞きそびれてしまった。

ふと市街が視界から去ると、目の前の樹々ははつきり見極める間もなく、車は地下に入ってしまった。上には帯状の大公園がある。今日は晴れていたから、きつと多くの人々が遊歩道を歩いていた事だろう。——地下道のむこうに外の光が見えてくる。地下道をぬけるともう行政区の一角だ。

そこには市の中枢となる庁局が全て集まっていた。一つ一つが特徴ある建物で、それが一体となって、高層ビルの並ぶ通産区、中央駅前と並んで、市の三大中心の一つを成している。この三つは密接に連絡されており、かつまたその中心から放射状に、全市、或いは神静区のすみずみまで一般道路が走っている。車は、その核というべき環状通りを右折して、大きな駐車場に滑り込んだ。

外に出る。風は強いが、そのあい間に注ぐ陽の光は暖かい。歩道を歩いていくと、正面に市役所が見られる場所に出た。

市役所は、一九七六年にこの地に移転された。

たそうだ。それはまた、市の開発整備計画の幕あけを象徴するものであったといわれる。それから三十余年、それは市の象徴として、かつまた頭脳としての役割を務めて来たのだ。

「……一九七〇年代後半より始まった長期的な開発整備計画は、一九八〇年代における静岡大地震に代表される数々の天災、人災にもかかわらず、順当な成果をあげて参りました。そして我が市は、今や人口三十一万六千人余の計画的近代都市の偉容を持って、首都八千キロ圏都市、及び東海メカロボリスの重要都市、神静区の区都としての役割を果たして居るわけでありませう。」

——市長のあいさつより

帰りに、伯父さんの家によって行く事にした。伯父さんの家は、近年、第三種居住区になった久野坂下にある。僕は、車を出ると非常に見晴らしの良い場所、平地を眺めた。市役所を中心とする行政区、帯状の公園、そして、そのまわりの家……そのざわめきもこの丘陵の上までは届かず、すべてが鳥かん図のように見渡せた。

たそがれが早くもせまってきた。陽は西に傾き、その逆光を浴びて、すべては黒い影になって浮かび上がった。そしてまた、ビルに住宅に、道路に、或いは海を走る船々に、酒匂の岸の工場群に、河口のホバークラフト基地に、銀の光がともし始めた。その中を、一本の光条が通り抜けて行く。第二の新幹線と呼ばれる、リニアモーター車だ。その行く手には、近代建築技術の結晶たる駅前の巨大な建造物と、小高く丘の上にそびえる小田原城とがあった。

「富士の見える 梅の丘に……」

伯父は市民歌を口ずさんでいた。伯父は、よくここに自転車に乗って、僕達が立っていた場所、スケッチをしたり、その頃はまだ未調査だった第一号古墳のぼつてみたという。そして今、その思い出の場所に住んでいるのだ。伯父は、どんな気持ちで歌を口ずさんだのだろうか。

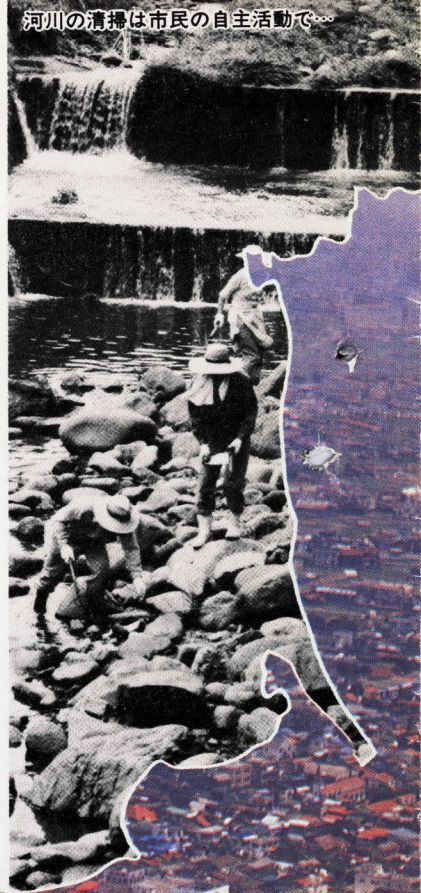
日は没し、空気が冷たくなり始めた。ぼうっとしていた僕は、

「さあ、家に帰ろうよ。寒くなって来たしね。そして、着いたら、三十年後この小田原がどんなになっているか、おまえに言うておこう。」

という伯父の言葉で我に返った。



河川の清掃は市民の自主活動で...

市制40周年記念  
作文コンクール

## 市長賞

こんな小田原に  
してください

足柄小学校2年 井山 幸子

今わたしのすんでいるところには、多古ゆうえんちという小さなゆうえんちがあります。ブランコ、ジャングルジム、すべりだいがあるけれど、あまりせまいので、ブランコを大きくこげば、人にあたってしまうんです。わたしは、ブランコも、すべりだいもほしいけど、もっとほしいものがあります。広いあそび場です。おもいきってどきはねたり、なわとびをしたりボールなげをしたりしてあそびたい。うんと大きな声を出して友だちとあそべるところがいいな。ドッチボールのボールがころがってもだいじょうぶなくらい広いところがいいな。

夏には、プールも、もっとほしい。みやぎのにいるいとこのみんちゃんのところには、地区にプールがある。ちかくの友だちとすきなときにプールに行くんだって。とてもうらやましい。

わたしなんか、夏休みは子ども会で、学校のプールへつれていってくれるけど、あまりいられない。小田原のプールへは、学校のきまりでとおうさんか、おかあさんがついていかないとけない。いそがしいのでだめと言われてしまう。もっともおよぎたい。うけるようになって、なかなかうまくならない。どんなおよぎば、すいすいおよげるようになるかもしれないのにな。自ゆうに行けるプールがほしいな。

もう一つ、地区に小さな図書館がほしい。広場のよこだとうれしいな。つかれたら本も読めるし、ちかくなら一人でもいられるし、おかあさんもゆるしてくれる。その図書館には、いつもおじいさんかおばあさんがいて昔のお話をきかせてくれるといいな。おじいさんの子どもころはどうだったのかなあ。

きいてみたい。

この間、わたしは、となりのうちにいきました。のうかです。かくれんぼをして、なやに入るとおねえさんが学校でならったというせんばこぎや、はじめて見るのうぐが、たくさんありました。石うすや、もちつきのももありました。おじいさんの話では、昔のうぐは、いまつかっていないようです。みんなにもこれを、みせてあげたいな。それから、石うすで米やむぎを自分でひいてみたいな。公民かんが大きくなりっぱにできあがったら、ねむっているいろいろなうぐを、そこにあつめて、いつも見られるようにしてほしいな。そして、子ども会のきょうじなんかで、石のうすでお米をひいたり、おだんごを作ったり、おもちをついたりしたら、きつと、みんな大よろこびすると思う。村のおとしよりから、昔の米づくりの話や、村のかわってききようすをきいたりする。そんな子ども会もいいな。それから道や町のあちこちに花がいっぱいだといいな。木もうえたいな。みどりのはっぱがきれいな道もすてきな。

わたしのおじいちゃんが、「多古のお寺のまえの道は、さくらの木があり、四月になるとさくらのトンネルができた。」といっている。さくらやうめの木をうえて、わたしが大人になったときは、そのトンネルをくぐってみたいなあ。

たくさん「いいなあ。」と思うことを書いたけれど、わたしが、わたしのおかあさんぐらになつたとき、どんな町になつていかな。おばあちゃんぐらになつたときは、どんなかな。まだまだ、どんなかむずかしくて、そうぞうできないけれど、べんりなきれいな町になつてほしいな。

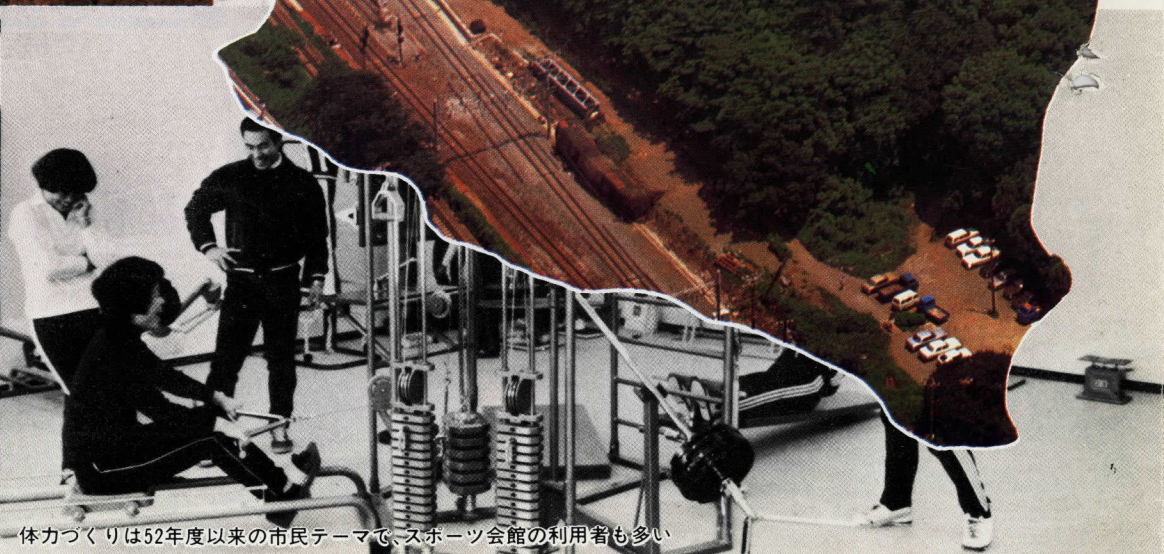
富士の見える足柄平野には交通の動脈が走り、工場群が並び立つ



ごはん給食は今年の5月から始まった



休日・夜間の急患診療制度発足で健康の支えが



体力づくりは52年度以来の市民テーマで、スポーツ会館の利用者も多い



 28,080 人  
 5,678 世帶



# 市制施行当

|       |     |                            |
|-------|-----|----------------------------|
|       | 6月  | 市長に佐藤謙吉氏が就任                |
|       | 8月  | 私立小田原商業学校が市立に移管する          |
|       | 10月 | 選挙管理委員会を設置                 |
| 昭和22年 | 3月  | 小田原商工会議所が発足                |
|       | 4月  | 自治体警察を設置                   |
|       | 4月  | 町内会・部落会・連合会・隣組が廃止される       |
|       | 5月  | 初めての小田原市長選挙が行われ、佐藤謙吉氏が選ばれる |
|       | 5月  | 小学校に給食が始まる                 |
|       | 5月  | 六・三・三制により新制中学校が四校開校する      |
|       | 6月  | 警防団が消防団と改称する               |
|       | 9月  | カサリン台風により早川の堤防が決壊する        |
| 昭和23年 | 3月  | 消防本部及び消防署を設置               |
|       | 4月  | 下府中村が小田原市と合併する             |
|       | 9月  | アイオン台風により早川の堤防が決壊する        |
| 昭和24年 | 2月  | 市長選挙で鈴木十郎氏が当選              |
|       | 5月  | アメリカ文化センターを設置              |
|       | 6月  | 城内庭球場が完成                   |
|       | 8月  | 第一回市営競輪を開催                 |
|       | 10月 | キティ台風により早川の堤防が決壊する         |
|       | 10月 | 城内野球場が完成                   |
|       | 10月 | 小田原漁港の工事が始まる               |



市紋章の入選を喜ぶ小田商の生徒（昭和16年）



住吉橋上で千人針の協力に応ずる婦人（昭和14年）



御幸の浜で行われた戦傷兵士の慰問会（昭和14年）



国道1号線で雪だるまづくりに興ずる子どもたち（昭和17年）



数少ない戦災写真の一枚、手前が古清水旅館の焼け跡（昭和20年）

曾我丘陵を遠望する田園風景（昭和15年）



市制施行当時

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 面積    | 57.54 km <sup>2</sup> |
| 人口    | 54,699 人              |
| 世帯数   | 10,749 世帯             |
| 電話台数  | 1,186 台               |
| 自動車台数 | 201 台                 |
| 小学校数  | 7 校                   |
| 予算額   | 877 千円                |

※参考 市制施行上申書



七夕まつりの飾りを先頭に学儀を渡る子どもたち（昭和14年）

大窪村

人口 4,696 人  
世帯 950 世帯

早川村

人口 2,460 人  
世帯 455 世帯



戦時色の濃い子どもたちの風俗（昭和14年）







市制40周年記念特集号



万年町の大火は280戸を全焼した(昭和26年)



にぎやかさを取り戻した栄通商店街(昭和26年)



昭和24年に開設した競輪事業は、再建小田原の大きな支えとなった(昭和26年)



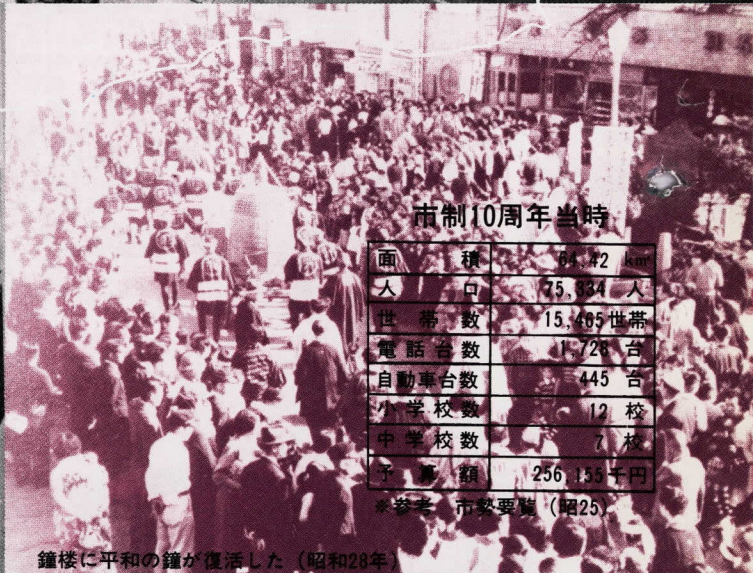
万年大火は復興小田原の大きな試練だった



ミス観光のコンテスト風景(昭和26年)



町村合併促進法により昭和29年12月1日には2町3村と合併(昭和29年)



市制10周年当時

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 面積    | 64.42 km <sup>2</sup> |
| 人口    | 25,324 人              |
| 世帯数   | 15,495 世帯             |
| 電話台数  | 1,728 台               |
| 自動車台数 | 445 台                 |
| 小学校数  | 12 校                  |
| 中学校数  | 7 校                   |
| 予算額   | 256,156 千円            |

\*参考: 市勢要覧(昭25)

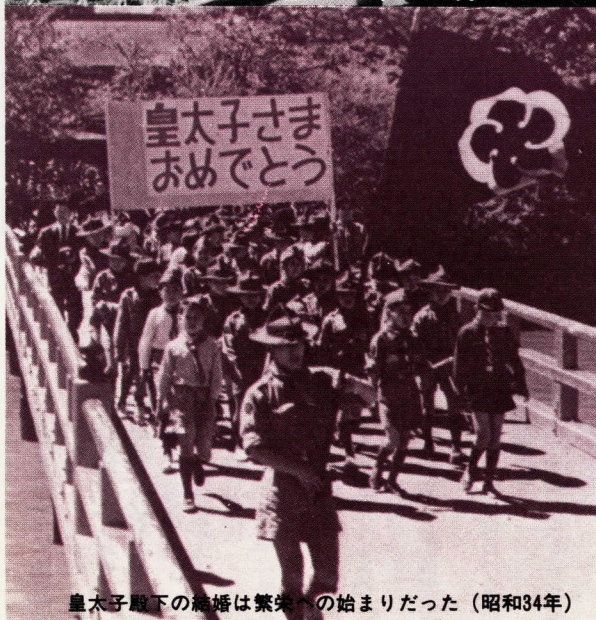
鐘楼に平和の鐘が復活した(昭和28年)



神奈川県を会場に国体が開催された(昭和30年)



国道1号線の改修もあって市内電車はこの年に姿を消した(昭和31年)



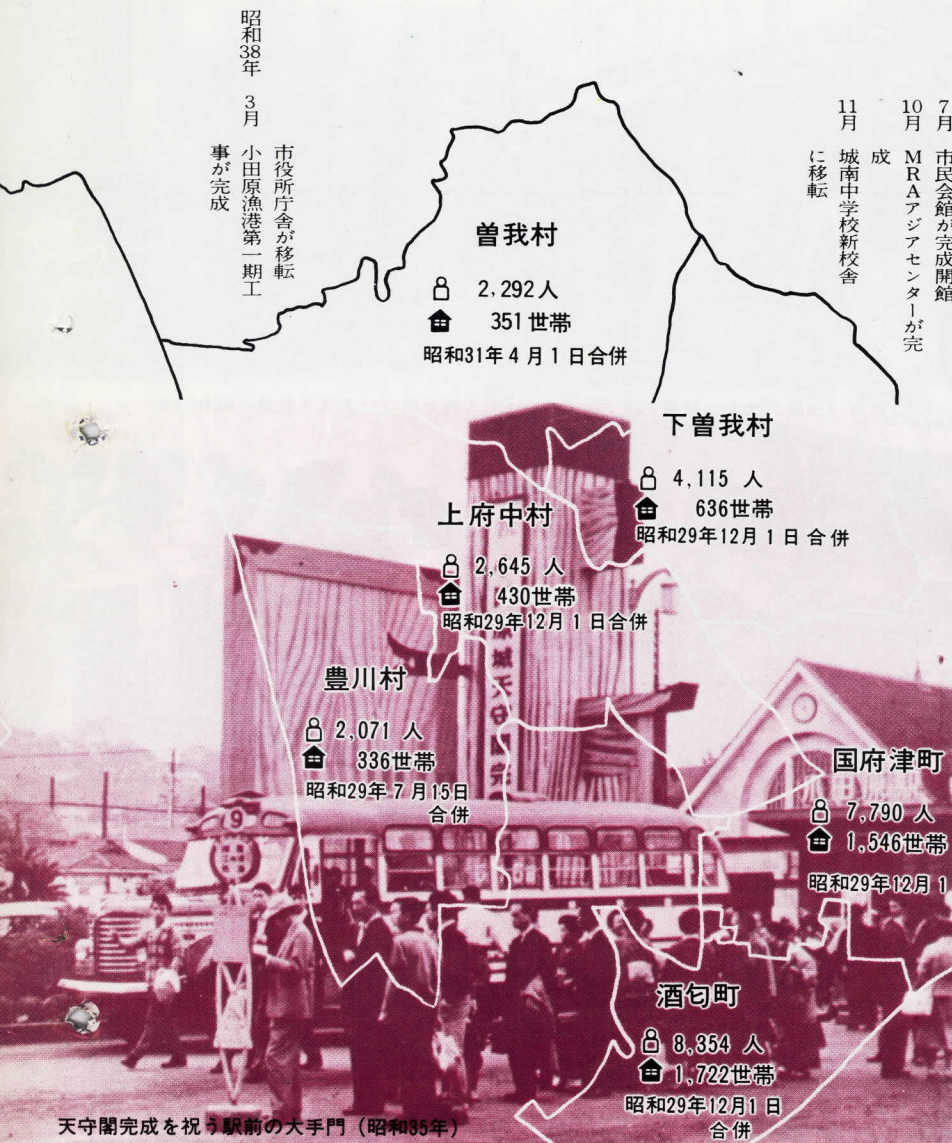
皇太子殿下の結婚は繁栄への始まりだった(昭和34年)

- 昭和34年
- 12月 天守閣再興用「瓦一枚運動」始まる
- 11月 星崎記念館が完成、市立図書館・児童文化館として開館
- 10月 「愛の鐘」の吹鳴が始まる
- 7月 江之浦漁港が完成
- 3月 早川橋新設工事が完成
- 9月 自主財政再建計画が完了
- 7月 早川橋新設工事が完成
- 7月 自治会・町内会(住民組織)が結成される
- 6月 市立病院第一期建設工事が完成、診療業務を開始
- 3月 市立病院第一期拡張工事が完成
- 昭和33年
- 10月 森林公園内に戦没者慰霊塔が完成
- 9月 白山中学校に市内初の鉄筋コンクリート造り校舎が完成
- 3月 風船だより始まる
- 1月 上水道第一期拡張工事が完成
- 昭和32年
- 10月 小田原市農業委員会が発足
- 10月 任命制による教育委員が就任
- 2月 市立西湘高校が開校
- 1月 自主財政再建計画を策定
- 1月 市長に鈴木十郎氏が三選
- 7月 和留沢部落で点灯祝賀式
- 7月 国府津海水プールが開設
- 9月 巡回レントゲン撮影と予防接種を開始
- 9月 白山中学校に市内初の鉄筋コンクリート造り校舎が完成



昭和35年〜44年

- 昭和35年
- 1月 ガン無料相談を開始
  - 5月 小田原城天守閣が完成(市制二十周年記念)
  - 9月 二宮尊徳生家を誕生地に移築復元
  - 10月 国民年金事務を開始
  - 2月 市長に鈴木十郎氏が四選大躍進が完成開通
  - 市立酒匂幼稚園が完成
  - 6月 高速堆肥処理施設が完成
  - 7月 消防西分署を開設
  - 8月 煙の平にゴルフ場が開場
  - 10月 第三水源地の送水を開始
  - 11月 県立城北工業高校が開校
  - 12月 小田原市新市建設計画を決定
- 昭和36年
- 1月 天守閣入場者百万人を突破
  - 4月 故鈴木英雄氏を名誉市民第一号に
  - 7月 妊婦に歯の健康手帳を交付
  - 10月 青少年補導所を開設
  - 11月 新しい市民歌が決まる
  - 12月 市立病院に結核病棟が完成
  - 市民会館が完成開館
  - 10月 MRAアジアセンターが完成
  - 11月 城南中学校新校舎に移転



市営住宅が続々誕生 (昭和35年)

昭和三十年、この年の経済白書には「もはや戦後は終わった」と記されました。このころから本市内への工場誘致が進められ、市制二十周年を迎えた昭和三十五年以降は一層盛んになり、本市の飛躍的な発展の基盤を形成することになりました。

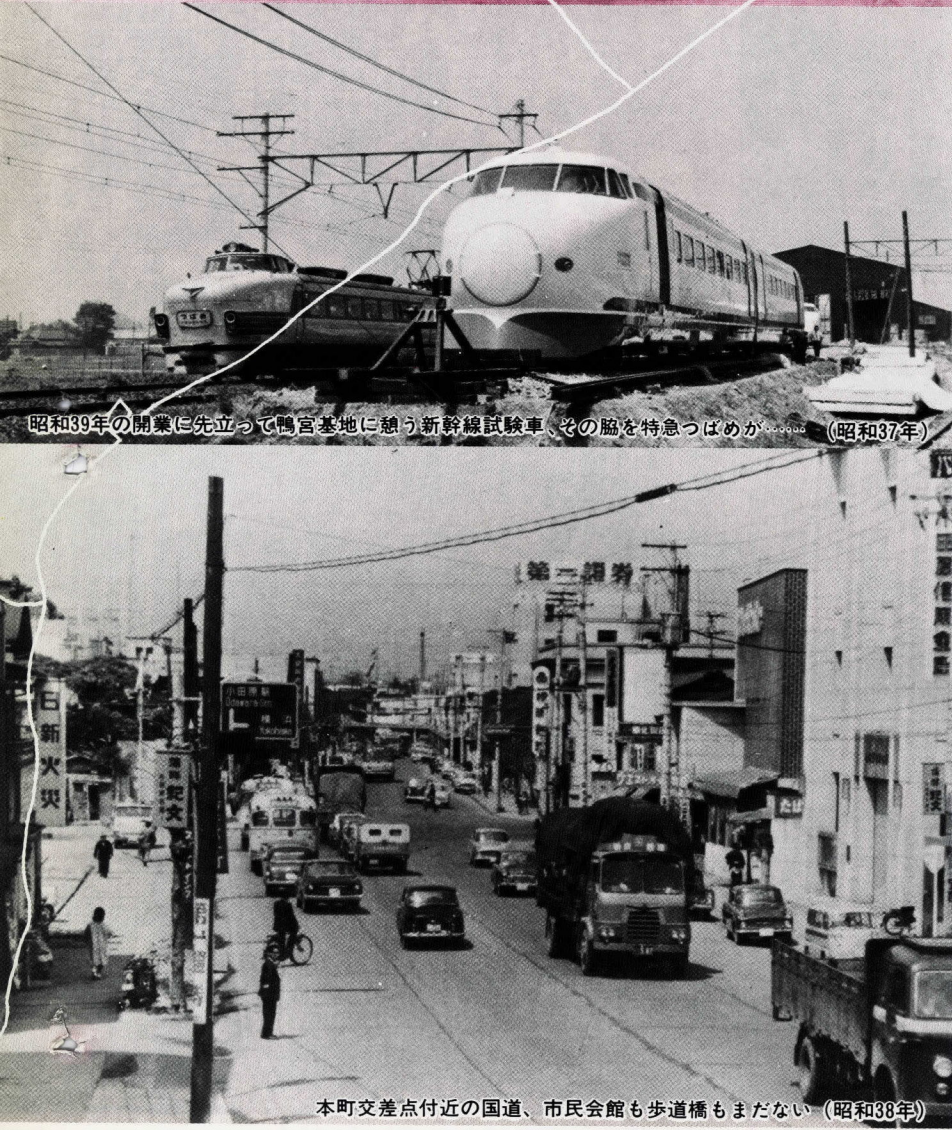
こうした市勢の伸張とともに、市民の願いであり、市のシンボルとしての小田原城天守閣が記念事業として復興され、さらに交通の要衝として東海道新幹線の停車駅をも有するに至って、小田原は伝統の上に立った近代的な都市として往年の名声を得るようになりました。

躍進する小田原

市制施行20周年記念特集号

市制20年のあゆみ

|                |                   |                     |                          |
|----------------|-------------------|---------------------|--------------------------|
| 昭和35年          | 1月 市制施行20周年記念式典挙行 | 昭和42年               | 11月 府川じん火焼却場が一部完成し、操業を開始 |
| 2月 市立酒匂幼稚園が完成  | 2月 市立酒匂幼稚園が完成     | 12月 消防本部庁舎が完成       | 12月 消防本部庁舎が完成            |
| 3月 市立酒匂幼稚園が完成  | 3月 市立酒匂幼稚園が完成     | 1月 自治会の協力の下に献血事業を実施 | 1月 自治会の協力の下に献血事業を実施      |
| 4月 市立酒匂幼稚園が完成  | 4月 市立酒匂幼稚園が完成     | 2月 市立酒匂幼稚園が完成       | 2月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 5月 市立酒匂幼稚園が完成  | 5月 市立酒匂幼稚園が完成     | 3月 市立酒匂幼稚園が完成       | 3月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 6月 市立酒匂幼稚園が完成  | 6月 市立酒匂幼稚園が完成     | 4月 市立酒匂幼稚園が完成       | 4月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 7月 市立酒匂幼稚園が完成  | 7月 市立酒匂幼稚園が完成     | 5月 市立酒匂幼稚園が完成       | 5月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 8月 市立酒匂幼稚園が完成  | 8月 市立酒匂幼稚園が完成     | 6月 市立酒匂幼稚園が完成       | 6月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 9月 市立酒匂幼稚園が完成  | 9月 市立酒匂幼稚園が完成     | 7月 市立酒匂幼稚園が完成       | 7月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 10月 市立酒匂幼稚園が完成 | 10月 市立酒匂幼稚園が完成    | 8月 市立酒匂幼稚園が完成       | 8月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 11月 市立酒匂幼稚園が完成 | 11月 市立酒匂幼稚園が完成    | 9月 市立酒匂幼稚園が完成       | 9月 市立酒匂幼稚園が完成            |
| 12月 市立酒匂幼稚園が完成 | 12月 市立酒匂幼稚園が完成    | 10月 市立酒匂幼稚園が完成      | 10月 市立酒匂幼稚園が完成           |



本町交差点付近の国道、市民会館も歩道橋もまだない (昭和38年)

- 昭和44年
- 11月 小田原漁港が第三種漁港に昇格し、県へ移管
  - 10月 第三次住居表示を実施(城山)
  - 8月 県西地域広域市町村圏が設定される(小田原市と足柄上下郡10町)
  - 7月 高田浄水場が一部完成し、操業を開始
  - 6月 県西地域広域市町村圏が設定される(小田原市と足柄上下郡10町)
  - 5月 市長と話し合う会がスタート
  - 4月 市立病院の病棟増改築工事が完成
  - 3月 市長に中井一郎氏が就任
  - 2月 小田原厚木バイパスが開通
  - 12月 市立病院の病棟増改築工事が完成
  - 11月 市長と話し合う会がスタート
  - 10月 高田浄水場が一部完成し、操業を開始
  - 9月 県西地域広域市町村圏が設定される(小田原市と足柄上下郡10町)
  - 8月 第三次住居表示を実施(城山)
  - 7月 小田原漁港が第三種漁港に昇格し、県へ移管
- 昭和43年
- 1月 市立小学校の暖房施設を整備
  - 2月 市立小学校の暖房施設を整備
  - 3月 早川土地区画整理区域内の町名を変更
  - 4月 市民相談室を開設
  - 5月 西湘バイパス一部開通(国府津・山王橋)
  - 6月 芦子小学校校舎が焼失
  - 7月 老人・身障者を対象に家庭奉仕員制度を実施
  - 8月 下水道終末処理場が高級処理を開始
  - 9月 御殿場線の全線電化が完成
  - 10月 明治百年記念に梅の苗木を各施設に植樹
  - 11月 市長に中井一郎氏が就任
  - 12月 小田原厚木バイパスが開通
  - 1月 市立病院の病棟増改築工事が完成
  - 2月 市長と話し合う会がスタート
  - 3月 高田浄水場が一部完成し、操業を開始
  - 4月 県西地域広域市町村圏が設定される(小田原市と足柄上下郡10町)
  - 5月 第三次住居表示を実施(城山)
  - 6月 小田原漁港が第三種漁港に昇格し、県へ移管

市制40周年記念特集号



# 伸張し繁栄する小田原

市制40周年記念特集号

- 常盤木門石垣復旧工事が完成  
消防署西大友分遣所が完成  
県小田原合同庁舎が完成  
小田原・国府津間が市内通話になる  
はしご消防車を配置  
新飯泉橋が開通  
中学校の牛乳給食が始まる  
米神漁港が完成  
大蓮小学校新校舎が完成  
老人健康検査を開始  
西湘バイパス建設に着手  
塔ノ峰青少年の家センターが完成  
東海道新幹線が開業、新小田原駅が営業開始  
オリンピック東京大会が開催される  
久野霊園の建設が始まる  
軽費老人ホーム「あしがり荘」が完成  
市長に鈴木十郎氏が五選  
早川小学校新校舎が完成  
上水道第二期拡張工事が完成  
し尿高速化学処理場が完成し、操業を開始  
市営弓道場を設置  
市民会館本館が完成  
故河野一郎氏を名誉市民に決定  
塔ノ峰青少年の家宿舎が完成  
和留沢の明神分校を廃止  
市行政事務に電子計算機を導入  
白山中学校校舎が焼失  
都市計画道路・飯泉国府津線が完成  
小田原厚木道路の建設に着手  
第一次住居表示制度を実施(栄町・中町・浜町・城内・本町・南町)  
下水道終末処理場で第一次処理を開始

天守の屋根にしやちほこを取付け(昭和35年)



軽費老人ホーム「あしがり荘」完成(昭和39年)

市制20周年記念事業に市のシンボルの小田原城天守閣を復興(昭和35年)



市制20周年当時

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 面積    | 105.44 km <sup>2</sup> |
| 人口    | 124,813 人              |
| 世帯数   | 26,162 世帯              |
| 電話台数  | 7,563 台                |
| 自動車台数 | 3,515 台                |
| 小学校数  | 21 校                   |
| 中学校数  | 11 校                   |
| 予算額   | 917,619 千円             |

※参考 市勢要覧(昭35)



東京オリンピック開催、お堀端を聖火が通る(昭和39年)



市民会館本館建設、手前の工事は地方裁判所(昭和40年)

献血運動が普及、この年から献血率は4年間日本一(昭和42年)



片浦村

人口 3,215 人  
世帯数 544 世帯

昭和29年12月1日合併



市水産市場が完成(昭和43年)







市制40周年記念特集号



小田原市役所



小田原駅東口広場整備事業が進む(昭和50年)

ゴミの減量と資源の再利用運動が広がる(昭和51年)



サイクリング広場完成(昭和52年)



市庁舎が完成(昭和51年)



緑を豊かにする条例を制定(昭和45年)



24番目の小学校として報徳小学校が開校(昭和52年)

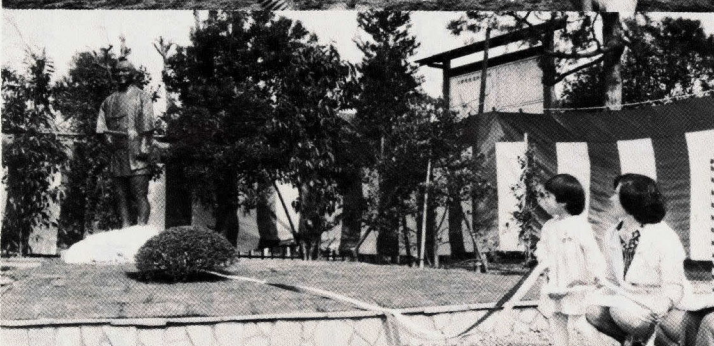


交通事故防止に交通安全指導隊が活躍(昭和53年)

市制30周年当時

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 面積    | 105.36 km <sup>2</sup> |
| 人口    | 155,347 人              |
| 世帯数   | 36,602 世帯              |
| 電話台数  | 23,486 台               |
| 自動車台数 | 13,251 台               |
| 小学校数  | 20 校                   |
| 中学校数  | 12 校                   |
| 予算額   | 5,418,000 千円           |

※参考 市勢要覧(昭45)



二宮尊徳120年祭記念に建立された「回村の像」(昭和53年)



文化勲章の尾崎一雄氏と神奈川文化賞の川崎義太郎氏(昭和53年)



城山陸上競技場が全天候型に生まれ変わって開場(昭和55年)

- 昭和55年
- 4月 市民テーマに「隣人と語り」の心の通い合うまちづくりを提唱
  - 6月 鴨宮駅南口広場の供用開始
  - 7月 新清掃工場が完成
  - 8月 地震災害初動体制規程を制定
  - 9月 東海地震に係る地震防災対策強化地域に指定される
  - 10月 小田原厚木道路の荻窪インターチェンジが開通
  - 11月 小田原城天守閣の入場者が一千万人を突破
  - 12月 印鑑登録・証明制度をカード方式に変更
  - 3月 小田原スポーツ会館が完成
  - 4月 各地区に自主防災組織が結成される
  - 5月 城山陸上競技場の全天候型改修工事が完成(市制40周年記念)
  - 6月 夜間の急患診療制を実施
  - 7月 小中学校で米飯給食を開始
  - 8月 城址公園のお堀浄化事業を開始(市制40周年記念)
  - 9月 「目で見える小田原の歩み」の16ミリ映画が完成(市制40周年記念)
  - 10月 旧松永記念館を郷土文化館分館として開館
  - 11月 高齢者生きがい事業団が発足
  - 12月 新小田原計画の基本構想についての市民集会を開催
  - 12月 新中央公民館が完成(市制40周年記念)
  - 姉妹都市を今市市と提携



# 市制40周年の記念行事

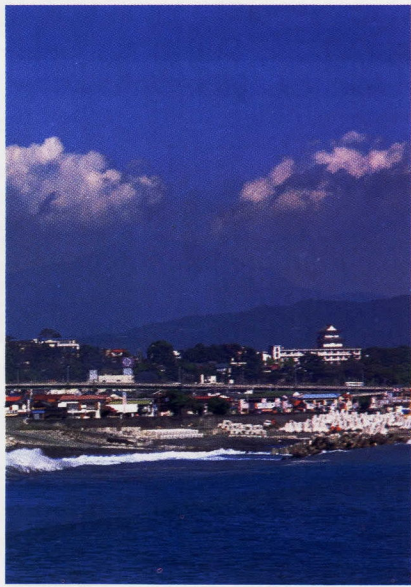
## 市制40周年記念特集号

### 記念式典を挙行政功労者を表彰

十二月二十日に行われる市制四十周年記念式典では、市制記念日の十二月二十日、市民会館で開催されますが、この日を中心として、四十周年記念行事が多彩に繰り広げられます。特に、記念事業として建設しました中央公民館の開館記念として行われる催物をはじめ、一般市民のみなさんが参加できる行事もいろいろ開催されますので、奮っておいでください。

市制四十周年を迎えるの記念式典は、市制記念日の十二月二十日、市民会館で開催されますが、この日を中心として、四十周年記念行事が多彩に繰り広げられます。特に、記念事業として建設しました中央公民館の開館記念として行われる催物をはじめ、一般市民のみなさんが参加できる行事もいろいろ開催されますので、奮っておいでください。

●12月10日(水) 小田原市市制40周年記念たばこ発売  
市内一円のみ  
●12月13日(土) 小田原市市制40周年記念たばこ発売  
市内一円のみ  
●12月18日(木) 小田原市市制40周年記念たばこ発売  
市内一円のみ  
●12月19日(金) 小田原市市制40周年記念たばこ発売  
市内一円のみ  
●12月20日(土) 小田原市市制40周年記念たばこ発売  
市内一円のみ



《中央公民館落成記念行事》

●1月11日(日) 小田原茶道連盟新春茶会  
午前10時～午後3時 和室  
●1月16日(金) 小田原水墨画会  
午前9時～午後7時 大会議室  
●1月21日(水) 西相美術協会会員展  
午前9時～午後7時 大会議室  
●1月25日(日) 小田原地方民俗芸能大会  
午後1時30分～3時40分 ホール  
●1月28日(水) 箱根物産伝説工芸展  
午前9時～午後7時 大会議室  
●2月1日(日) 劇団こゆるぎ座公演「息子」  
午後2時～3時30分 ホール  
●2月8日(日) 小田原琵琶協会演奏会  
午後1時～4時 和室  
小田原フィルハーモニー交響楽団演奏会  
午後3時～4時 ホール

●児童委員 小田原市遺族会  
●保健衛生功労 眞壁賢一 太田丑五郎 藤本昭  
●産業経済功労 義(以上国民健康保険運営協議会委員)

### 中央公民館の開館行事 新春に多彩な催し

十二月十三日にしゅん工式を行なった中央公民館は、昨年十一月に竣工、総経費三億八千六百五十万円、延床面積四千四百七十七平方メートル、鉄筋コンクリート造四階建て、一階が駐車場(五十七台収容)、二階が市庁舎、三階が市民ホールと連絡通路でつながる、この会館のメインである舞台付きホール(五百四十人収容)・大会議室(三百三十人・事務室など)があります。三月からになります。

### 市民憲章碑 市役所前庭に

十二月十三日には、市民憲章碑の除幕式が行われます。この憲章碑は、高さ二・四メートル、幅三・五メートルの本松石の自然石に刻まれたもので、市役所前庭の歩行者通路北側に建てられます。

### 小田原市40年の歩み 写真パネルで紹介

この写真展は、昭和十五年に市制を施行して以来、今日までの小田原の歩みを、その時折の象徴的な写真によってたどったものです。全体は大きく五つのコーナーに分けられ、四十年の歩みをいろいろな角度から顧みる「項目別に年代を追うコーナー」、昔と今の姿を比較する「今昔対比コーナー」、市制記念事業の歩みを紹介した「市制記念事業コーナー」、そして、一人一人が健康で豊かな心を持ち、新しい姉妹都市を紹介する「姉妹都市コーナー」、年表と図表で市の移り変わりを紹介するコーナーがあります。特に、市制施行のために上申書に添付された当時の小田原の町の様子を写した写真には懐かしいものや珍しいものもあり、みなさんにお楽しみいただけるものと思われ

### 記念たばこ 12月10日発売



小田原市の市制四十周年を記念して日本専売公社から記念たばこが発売されます。この記念たばこは、マイルドセブン二十本入で、表に小田原市の紋章と、富士山を背景に波と松を配して小田原城が描かれ、裏には緑と水と松を象徴する波の上に市域を形どり、市の木「くろまつ」と市の花「うめ」、それに市役所庁舎と建ち並ぶ近代ビルを配して明日に伸びる小田原が描かれています。発売は、十二月十日から小田原市一円のみで、いせいに発売されます。

### 映画「小田原の歩み」 希望者に貸出しも

市制四十周年記念事業の一つとして製作された16ミリ映画「小田原の歩み」は、私たちの郷土小田原の古代から現代までを、昭和初期の実写フィルムなどを混えて編みだしたもので、多くのみなさんに集められた五十分もの大作です。市制四十周年記念事業の一つとして製作された16ミリ映画「小田原の歩み」は、私たちの郷土小田原の古代から現代までを、昭和初期の実写フィルムなどを混えて編みだしたもので、多くのみなさんに集められた五十分もの大作です。市制四十周年記念事業の一つとして製作された16ミリ映画「小田原の歩み」は、私たちの郷土小田原の古代から現代までを、昭和初期の実写フィルムなどを混えて編みだしたもので、多くのみなさんに集められた五十分もの大作です。

